

Tokai Fubokon Letter

東・中オータムフェスティバル<11/21>

愛知県内の多くの地域で行われた県民文化大祭典(通称:オータムフェスティバル, オータムなど)は、県会議員・市議員の方々をお迎えして私学助成拡充へのご尽力に感謝をお伝えし、私学教育への共感を広げて、さらなる私学助成充実をお願いする場です。同時に、コロナ禍の今年は、部活動で日頃の練習の成果を発表する場が失われた生徒のみなさんに、披露の場を提供したいとの強い思いがありました。また、私学進学をお考えのみなさんが、学園関係者と



直接進学相談ができる場として、広く私学の魅力をお伝えすることも大きな目的でした。

東・中オータムフェスティバルは11月21日(日)に東海中高で行われました。昨年度コロナ禍により、直前で中止となったため、2年ぶりの開催となりました。

今年は明照殿を主会場として、式典・希望プロジェクト、網の目教育懇談会(進学相談会)、生徒発表、各種バザーといった催しが開かれました。東海中高父母懇では、恒例の「制服バザー」を、例年の5月の総会から時期を移して行いました。当日は、東区・中区選出の県会・市議員4名のみなさま、学園関係者、市民と多数の方々にお集まりいただき、熱気あふれる集会となりました。

生徒発表オープニング

式典に先立つ生徒発表は、東海ジャグリング部のソロ・パフォーマンスからスタート。大道芸の定番、ディアボロというコマを器用に操り、リズムカルな曲に合わせて妙技が披露されました。技が決まるたびに会場から温かい拍手が! 続いて、オーケストラ部のチェロのデュオが、「影武者」



「despacito」を演奏。2本のチェロが織りなす音の響き合いに心地よい時間が過ぎていきました。そして栢山のギター部。15名の演奏者が並び、クラシックギターで「仕事はじめ」「Sky!Sky!Sky!」「Spanish Coffee」の3曲を奏しました。同じ弦楽器が15本並び、繊細で美しい音が重なり合う贅沢な演奏でした。



最後に、栢山フィルハーモニークラブによる「パイレーツオブカリビアン」。映画でもおなじみの迫力あるメロディーが会場を満たしました。コロナ禍で十分な練習や発表の場が確保できないなか、それぞれがこの日のために磨いてきた腕を存分に発揮し、明照殿にふさわしい格調高い雰囲気を作り出していました。

接待の舞台裏(担当者より)

いつもは楽しく和やかな雰囲気の父母懇事務局のお母様方もこの日はピリッと緊張した様子。なぜなら、来賓接待係として、式典に登壇していただく県議・市議の方々をお迎えするからです。愛知県父母懇からお手伝いに来てくださったOBのお母様方は慣れた様子でテキパキと動かれ、細やかに行き届いた準備や心遣いは、来賓の皆さまを精一杯お迎えしたいという想いに溢れています。それとは対照的に、議員の方とお会いする接待初心者はオロオロするばかり…。

先輩父母の「大丈夫! 議員の方々はずぐに分かるから!」とのアドバイスに、最初は「ほんとうかしら…」と思っていましたが、確かに!! 正門に立たれた時点でずぐに分かりました。堂々とした立ち振る舞い、近視・老眼でも一瞬でフォーカスされる



議員バッジ、キリッとした表情で颯爽と歩く様子はオーラ全開。しっかりと私学助成に向き合っていただけであろう印象を受け、たいへん心強く感じました。

来賓接待係として明照殿下の受付から玄関までの30mほどのご案内でしたが、みなさまと同じ「私学助成への熱い想いと願いを届けたい」「オータムフェスを成功させたい」という気持ちでご案内させていただきました。微力ながら、今回のオータムフェスに少しでも貢献できたのであれば幸いです。

希望プロジェクト

希望プロジェクトとは、学校の垣根を越えて活動する高校生フェスティバルが、さまざまな活動を通して得た学びや思いを構成詩や群舞という形で表現する企画です。明照殿前方のスクリーンに活動の様子が映し出され、代表生徒が詩を朗読し、コロナ禍でさまざまな制限が課されるなか、希望をもって11/3(祝)のビッグフェスティバルを成功させた思いが共有されました。続く弁論では、東海の青木政磨君が、募金活動を通して感じた善意のやりとりや、群舞を踊る意味について話してくれました。そして、メンバー全員で踊る群舞



では、晴れやかな笑顔によって、会場は前向きなエネルギーに満たされました。



クラッピング(担当者より)

希望プロジェクトの中盤に、「クラッピング」が披露されました。今年は合唱曲「♪負けないで」に合わせて、手を叩きながら振り付けダンスをおこなうもので、希望プロジェクトに華を添えます。

事前に動画を見ながら、クラッピング・リーダーから指導していただき練習をしましたが、普段全く運動をしない身体にはかなりハードなものでした。前日の夜に一通りおさらいしていたのですが、実際に手と足の動き、順序を一気に覚えるのはとても大変でした。何回か家で練習し、当日朝の電車の中で順序を覚えようと動画を見ながら学校へ向かいました。

本番は、高校生の構成詩・弁論の後、父母と生徒

が一緒になって「負けないで」の曲にのせて踊りました。その姿に一体感を感じ、一人一人の力は小さくても皆で力を合わせると大きなものになることを実感しました。



群舞も素晴らしかったです。高校生の皆さんの笑顔と生き生きとした表情がとても印象的でした。自分が高校生の時に私学フェスティバルのお知らせを頂いたことを思い出し、学校の垣根を超えた活動が何十年もの間、進化しながら継続していることに改めて父母懇活動の意義を考えさせられ、充実した1日を過ごすことができました。

記念式典

記念式典には、東区・中区選出の、政木りか県議、ますだ裕二県議、中田ちづこ市議、塚本つよし市議をお迎えしました。また、学園登壇者の一人として、東海中高佐藤泰年校長先生にもご登壇いただきました。



式典は校長先生のご挨拶で幕開け。明照殿という建物のご説明や、建学の精神に基づく私学教育の意義をお話していただきました。基調報告では、昨年度、歴史的な成果を見せた授業料助成への感謝とともに、コロナ禍で辛い状況に置かれてもめげずに仲間と手を取り合って立ち上がる生徒の姿を具体的なエピソードも交えて語られました。

続く県議・市議のご挨拶では、政木県議が、「これから将来を担う皆さんが安心して自分の学校が選択できるように私たちもしっかりと支えていきたい」とお話しになりました。ますだ議員からは、「私学助成の目的は、公



私格差の是正を図り、そして教育の機会を均等に確保するために、まずは父母負担の軽減をそして、もう一つが経営の安定を図るもの」との認識が示され、「オランダやスペインのように私学の授業料を公費で賄うよ



うな制度改革が求められてくるかもしれません」と今後の展望についても触れられました。中田市議からは、「群舞を踊ってくださった皆様の、あの生き生きとしたそして素晴らしい笑顔、本当に素晴らしいなあと思いました。その笑顔が皆様方の学生生活の間ずっと続いていけるように私ももしっかりと全力を尽くして頑張ってまいります」と力強いメッセージが発せられました。



東海父母懇制服バザー (担当者より)

各種バザー企画のひとつとして、東海父母懇は「制服バザー」を開催しました。5月の総会が中止されたため、時期を移して今年度初となる制服バザーは、今回も大盛況でした。各ご家庭からお届けいただいたリサイクル用制服を種類別に分け、ウエストや股下のサイズを測り、ラベルを取り付け、販売用に準備しました。



当日は、昼12時半の整理券配布開始前から購入ご希望の方が来られ、明照殿下に臨時で整理券配布用待機場所を作り、定刻までお待ちいただくことになりました。開場の12時半には、すでに20名ほどの方が列を作る人気ぶりでした。



式典の後、午後2時10分から販売開始。整理券順に5名ずつ5分で購入していただく「時間制限システム」を採用。購入可能点数を、お一人様、学ランは1点、ズボンが2点までとさせていただきます。いちばんの売れ筋は、夏冬とも制服ズボン。体育館シューズも予想外に好調な売れ行きでした。

来場された方から、中高の制服の違い、刺繍の取り外し方、学年による体操服の色分け、成長期のサイズ拡大の見通しなど、さまざまなご質問をいただきました。もちろん個人差もあることですので、全てにお答えはできませんでしたが、ベテランの父母を中心にわかる範囲で助言をいたしましたところ、「ありがとうございます!」と感謝の言葉をいただき、お役に立ててよ

かったと思っております。

とりわけズボンを購入いただく際には、ウエストと股下のサイズを測ってからお越しいただくと、スムーズにお探しいただけると思います。



1時間ほどのバザーでしたが、30名ほどの方にご来場いただき、最終的に3万6,010円の売り上げがありました。制服はリサイクルしなければ、そのまま廃棄となりますが、バザーによって新たなご縁が生まれるのは、社会貢献のひとつの形です。この売上金は、当日高フェスの生徒たちが行った一億円募金に、東海父母懇からとして寄付させていただきます。

今回の制服バザーは、来年5月の父母懇総会で行う予定です。各家庭でご不用となりました制服がございましたら、中学:笠行先生(中学数学科)、高校:北村先生(高校英語科)までお寄せください!

網の目教育懇談会(進学相談会)

制服バザーと並行して、スタディーホールでは網の目教育懇談会が開催されました。東海の高屋敷祐音君が、生徒代表で話をしてくれました。私学進学をお考えの来場者に対して、東海中高をアピールするだけでなく、コロナ禍のなか学校で学ぶことの意味を問い直した経験に基づく深い話をしてくれました。その後、学園ごとのブースで個別の進学相談を受け、東海ブースにも親子連れの方がお越しになり、学校生活について熱心に耳を傾けていらっしゃいました。ここから未来の東海生、私学の生徒たちが生まれてくる予感が充満していました。

今後の掲載予定

- ・ 高フェスイタビュー (お詫び:今号に掲載予定でしたが、延期いたします)
- ・ 第2回文化講座

編集後記

式典では久しぶりに校長先生のお話をお聞きし、高校生の発表を楽しみ、バザーがあって、クラッピングで高校生と踊る…。まるで文化祭のような楽しい一日でした。お手伝いのはずが、人が集まってワクワクする感じを久しぶりに味わい、心が軽く、リフレッシュできました♪